

## ゴーヤネットワーク活動における取り組み結果報告

2009. 1. 30

### はじめに

一昨年度、大阪府からの提供を受けた「ゴーヤ」を活用して環境情報サロンや市内小学校を始め、個人的に配布し、家庭などで育てていただく試みを実施した。家屋の壁面に竹組みや支柱を立てて、ゴーヤを育てることで、室内気温を下げる役割を果たし、冷房温度を下げることによって地球温暖化防止の一助になる効果も期待して実施したものである。また、育ったゴーヤを家庭料理に活用するなど、他の効果をあげることができた。

この取り組みを行った何人から、2008年度も取り組みをしてほしいとの要望も寄せられたことから、ゴーヤネットワークを結成して、取り組みを行ったものである。なお、ゴーヤとはウリ科、ツルレイシ属、インド原産、独特の苦味を持つ沖縄特産の食材として有名である。

### 基本事項

#### 1. 趣 旨

ゴーヤを育てることを通じて地球温暖化防止の一助にするとともに、ゴーヤを利用したエコクッキングの取り組みを進めることを通じて、関係者の輪をつくることを目的とする。

#### 2. 組 織

ゴーヤを育てる意志のある団体・組織・個人で趣旨に賛同するものをもって組織する。育苗は無料で配布する。

#### 3. 活 動

ゴーヤの育苗あるいは育苗の配布を受けて、それぞれの団体・組織・個人が、最も適当な時期に育てることを通じて活動する。ただし、家屋（建物）の壁面など、室内温度の低減効果が期待できるような対策を講じて育てることとする。

#### 4. 情報交換

参加する団体・組織・個人はゴーヤネットワークの会員として、後日、調査表に記入して報告する。また、交流会などを開催して交流を深める。

以上を基本にして活動を開始した。

### 活動経過

- 2008. 4. 28 りーヤ種の植え付け作業（種まき「約600粒」）一気温が低く育苗失敗
- 5. 15 第2回ゴーヤ植え付け作業（種まき「約500粒」）
- 5. 20 「推進方針」提案
- 々 公園みどり推進課からゴーヤポット提供（「約50ポット」）
- 6. 10 りーヤ料理の講習会とゴーヤのポット配布
- 6. 19 大阪府からゴーヤポット提供（約「200ポット」）
- 6～ 以降、順次取り組み行う市民、事業者、施設等に配布
- 9～ 調査表回収・結果集約

## 活動結果（調査票集約）

### 1. 基本事項

#### 1) 調査表の配布と回収

取り組む際に調査票をお渡しして、9月以降、記入のうえFAX等にて返送する方法を要請した。

#### 2) 配布量

1個人2～3ポット（1ポット2粒）程度を配布した（配布時期で差異）。事業所及び施設は要望量に基づき配布した。

### 2. 取り組み者数

全体数 121枚（個人112 事業所3 学校6）

回答数 66枚

回収率 54.5%

### 3. 結果

#### 1) 設問1 性別

項目	男性	女性	無回答	合計
回答数	19	38	9	66
比率	28.8%	57.6%	13.6%	—

男性は全体の約3割、女性が約6割であった。取り組み対象者は、ゴーヤ料理講習会参加者、「とよっぴー購入者」、「とよっぴー倶楽部会員」、NPOアジェンダ21会員、その他である。

#### 2) 設問2 年齢

項目	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	無回答	合計
回答数	2	0	5	14	19	14	2	10	66
比率	3.0%	0.0%	7.6%	21.2%	28.8%	21.2%	3.0%	15.2%	—

年齢は60歳代が一番多く、続いて50及び70歳代で年齢が低くなるほど取り組み者数が少なかった。これは、取り組み対象者が限定されたことによる。裾野を広げる工夫があれば、年齢のバラツキが働いたと考えられ次回の課題である。

#### 3) 設問3 住居

項目	マンション	一戸建	その他（無回答含む）	合計
回答数	11	38	17	66
比率	16.6%	57.6%	25.8%	—

住居では約6割が一戸建てで、マンションが約2割であった。市内ではマンションの比率は高いが、取り組み者の年齢を斟酌すると一戸建てが多い結果と考えられる。

4) 設問4 苗を植えた時期

項目	5月下旬	6月上旬	6月中旬	6月下旬	それ以外	無回答	合計
回答数	7	12	9	19	5	14	66
比率	10.6%	18.2%	13.6%	28.8%	7.6%	21.2%	—

6月下旬が約3割、続いて6月上旬の約2割、6月中旬及び5月下旬の順であった。無回答も約2割あった。植え付き時期は、ポットの配布時期とも関係するが、気温とも深くかわることから、それぞれ工夫して時期を整えたと考えられる。

5) 何株育てか

項目	1株	2株	3株	4株	それ以上	無回答	合計
回答数	0	9	23	7	16	11	66
比率	0.0%	13.6%	34.8%	10.6%	24.2%	16.8%	—

個人には当初2～3ポット（1ポット2粒入り）配布した。団体（事業所・学校）は希望数に応じた。3株が最も多く、続いて5株以上である。6月に入って若干ポット数を増やしたこともあり、5株以上が生じた。中には、育たなかった場合もあり、その相関関係は不明である。

6) 育て方（何処で「場所・方法」）

項目	プランター	地植え	その他	無回答	合計
回答数	31	24	2	9	66
比率	50.0%	36.4%	3.0%	13.6%	—

住居では一戸建てが全体の約6割であったが、地植えは約4割程度で、プランターが5割を占めた。地植えとプランターでの育ちの差はあまりない。十分育種したものであれば、初期に水遣りを丁寧すれば育った。

7) 水遣り管理

項目	十分	やや十分	どちらでない	やや不十分	不十分	無回答	合計
回答数	20	23	1	6	0	16	66
比率	30.3%	34.9%	1.5%	9.1%	0.0%	24.2%	—

水遣りはほとんどが丁寧に実施している。やや不十分と不十分は1割に満たなかった。

8) ツルの誘引法（複数回答）

項目	ネット	金網	ひも	支柱	棚作	地面	その他	無回答	合計
回答数	27	2	14	25	2	0	2	0	72
比率	37.5%	2.8%	19.4%	34.7%	2.8%	0.0%	2.8%	0.0%	—

ネットを設置する方法が約4割で、支柱を立ててツルを伸ばしていく方法がそれに続いた。ひもを張る方法

も約2割あった。基本的には温暖化対策であることから地面に這わす方法はなかった。

9) 体感温度の変化

項目	涼しくな った	やや涼しく なった	どちらでも ない	やや暑くな った	暑くなった	無回答	合計
回答数	3	28	19	0	0	16	66
比率	4.5%	42.4%	28.8%	0.0%	0.0%	24.2%	—

ゴーヤによる体感温度の変化では、涼しくなった傾向が全体の約5割を占めた。もう少し効果の回答があると予想したが変化がなかったも約3割あることから、設置方法や育て方等について説明が必要かも知れない。実際に温度測定していた人もあるが、具体的な温度差は正確に示せない。(その日によって気温・湿度等が違い、科学的に示せない)

10) 見た目の雰囲気の変化

項目	良くなった	やや良くな った	どちらでも ない	やや悪くな った	悪くなった	無回答	合計
回答数	26	20	5	0	0	15	66
比率	39.4%	30.3%	7.6%	0.0%	0.0%	22.7%	—

見た目の変化では良くなった傾向が全体の7割に達し、この点では取り組んだ成果が現われたと評価できる。

11) 収穫

項目	できた	できなかった	育ち中	その他	無回答	合計
回答数	51	2	12	1	0	66
比率	77.3%	3.0%	18.2%	1.5%	0.0%	—

実際にゴーヤが実り収穫できたかでは、育ち中の分も含め95.5%に達し、収穫では満足を得る結果が現われたと評せる。

12) 今後も栽培の希望は

項目	したい	ややしたい	どちらでも ない	あまりした くない	したくない	無回答	合計
回答数	44	6	2	0	0	14	66
比率	66.7%	9.1%	3.0%	0.0%	0.0%	21.2%	—

一応、新年度も実施を計画しているが、また取り組みを希望するのは約8割に近い数値となった。希望なしはなかった。

13) ー1 良かったことの具体的例（記入があった分）

項目	収穫ができた	気持ちが和む	緑のカーテンができた	夏野菜として活用できた	緑の窓が楽しめた	毎日の成長が楽しめた	香りを楽しめた	日陰が増えた	ゴーヤ料理がおいしかった	コミュニケーションができた
回答数	1	3	1	1	4	5	3	1	1	1

13) ー2 悪かったことの具体的例（記入があった分）

項目	収穫ができなかった	ツルが他の植物や網戸に絡まった	日除けにならなかった	実が小さい	匂いがくさかった
回答数	2	3	1	3	1

14) 料理法

多様な方法での回答が寄せられた。ジュース、ゴーヤチャンプ、佃煮、天ぷら、卵炒め、ベーコンゴーヤサラダ、カレー、ゴーヤポテト、ゴーヤ丼などあげればきりが無いほど多様な料理方法が報告された。

総括

当初、種まきに失敗（気温が低かった）したが、行政（市及び府）からの提供と2回目の種まき成果を経て多くの人が活動に参加した。また、この間関係を深めてきた事業所及び学校からの依頼もあり、協力した。その結果、120を越える市民と団体が取り組んだ。これだけが取り組んだ例はさほどないのではないだろうか。

はじめて、本格的に取り組んだため体制も不確立で最後まで活動をまとめることができなかつた不備はあるが、66人（多少無回答が気になるが）から実施報告があった。調査表を配布してから活動が終了するまでタイムラグがあるため、調査表の回収は難しいと予測をしていた。しかし、50%以上の回収となり安堵している。また、次回も希望する回答が7割を超えており、活動を行って良かったと総括できるのではないかと。

当初にゴーヤ料理の講習会を行ったが、次回は最初と収穫後にも開催できることも考慮したい。なお、今回、縦割りの活動展開となった。集団の垣根を排除してお互いの立場と領域（自分達の活動エリア）を理解しつつ全体として取り組み総体を拡大するために横割りの取り組みが必要であり、関係者間の十分な意思疎通が必要である。

今回の調査については、活動はいろいろな形であったが、一緒に調査票で集約することとし、市が提供した調査票を尊重して取り組んだことを述べておく。

最後に各関係者の努力を謝したい。